

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02589

研究課題名(和文) 19世紀後半パリにおける出版物とシャンソンとの影響関係

研究課題名(英文) Relationship between publications and chanson in late 19th century Paris

研究代表者

吉田 正明 (Yoshida, Masaaki)

信州大学・学術研究院人文科学系・教授

研究者番号：20191611

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本では入手困難な一次資料や文献を調査収集することができ、それらの資料に基づいて19世紀中葉から世紀末にかけてパリで隆盛したカフェ・コンセールや文芸キャバレー、あるいは労働者サークルという3つの異なる場における当時の出版物とシャンソンの関係を明らかにした。これまででは出版物の研究とシャンソン研究はそれぞれ個別になされることが多かったが、本研究では双方を相互的影響関係のもとに捉え直し、総合的視座から考察することで、両者の緊密な関係を明らかにし、当時のシャンソンや詩の朗読やモノログといった口承文化の実相と、それが当時の文芸や大衆文化に及ぼした影響を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シャンソン研究はそのサブカルチャー的性格ゆえにこれまで本格的な学術研究の対象にはほとんどされてこなかった領域である。19世紀中葉から世紀末にかけてシャンソンが重要な役割を担ったカフェ・コンセール、文芸キャバレー、労働者サークルという3つの異なる場において、これまででは別々に研究されてきたシャンソンと出版物との相互的影響関係を総合的視座から考察したところに本研究の特色と意義が存する。また、本研究を通して、わが国におけるシャンソンの学術研究の基盤を固め、国内外の研究者と連携を取ることで、立ち遅れていた日本でのシャンソン研究の発展に寄与することができた。

研究成果の概要(英文)： We could research and collect primary materials and literature that are difficult to obtain in Japan, and based on those materials, in three different places: cafe-concert, literary cabaret, and workers' circle that flourished in Paris from the middle of the 19th century to the end of the century, we clarified the relationship between the publications of that time and Chanson.

In the past, research on publications and research on Chanson were often conducted separately, but in this research, we reconsider both based on mutual influence and consider them from a comprehensive perspective. By clarifying the close relationship, we were able to clarify the reality of oral culture such as chanson and poetry reading and monologue at that time, and its influence on literary arts and popular culture at that time.

研究分野：フランス文学

キーワード：シャンソン シャンソニエ 文芸キャバレー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 2004年にフランス国立図書館において、それまで未整理の状態で散逸していたシャンソン関連資料の調査と整理がようやく実施され、シャンソンの学術研究の基盤が整えられた。

(2) それにともない、フランスのモンペリエ第3大学等において新進気鋭の研究者が学際的なシャンソン研究に従事し始めた。

(3) しかし日本においては、シャンソンの学術研究はまだ立ち遅れている状態であった。

(4) 一方、19世紀後半の出版物の調査研究は個別に進められていたが、シャンソンとの関連で扱われる研究はまだ手薄であった。

2. 研究の目的

(1) 19世紀中葉から世紀末にかけてパリで隆盛したカフェ・コンセールや文芸キャバレーにおいて、あるいはパリ・コミューン以来社会主義思想を背景に盛り上がりを見せた労働組合運動において、当時の新聞や雑誌などの出版物とシャンソンの受容の関係を明らかにする。

(2) 普仏戦争の敗北によるドイツへの怨恨がまだ根強く残っていた19世紀末から20世紀初頭のフランスにあって、社会主義、無政府主義、自由主義、革命思想などその主義主張は異なれど、平和主義の立場を守った労働者階級出身の詩人やシャンソン作家たちの活動を支えたシャンソングループ「赤いミューズ」の実相を調査し、これらの労働者階級出身の詩人やシャンソニエたちの歌やその歌に込められたメッセージを読み解くことで、こうした政治的・社会主義的・革命的シャンソンの普及がどのような土壌から生まれ、後のセーヌ左岸やサン・ジェルマン・デ・プレなどのキャバレーに集った作家や作詞家やシャンソンの歌手たちにどのような影響を与えたのかを調査研究する。

(3) 本研究を通して、未だ本格的な研究がそれほど進んでいないわが国において、新進気鋭の研究者と連携してシャンソンの学術的研究の基盤を整備しその発展に寄与していく。

3. 研究の方法

(1) 研究に必要な不可欠な文献や一次資料の調査収集を、フランス国立図書館、アルスナル図書館、パリ市歴史資料館、モンマルトル美術館等で実施し、調査収集したそれらの文献・資料を精査・分析し、提起した上記課題を明らかにする。

(2) 研究代表者は、日本におけるシャンソンの学術的研究を推進するために「シャンソン研究会」を立ち上げ、春と秋の年2回定期的に研究会を実施しているが、研究会において研究成果の報告を行うとともに、会員間で本テーマに関して議論を深め、研究成果を研究誌や大学の紀要に発表することで社会に広く公表していく。

4. 研究成果

(1) 研究期間中3度渡航してパリのフランス国立図書館、アルスナル図書館、パリ市歴史資料館、モンマルトル美術館等で現地調査をし、日本では入手困難な一次資料を多く収集することができた。

(2) 初年度はジャン・バティスト・クレマンの資料収集を重点的に行い、パリ・コミューンの闘士として活躍した後、当時劣悪な環境に置かれていた労働者階級の待遇改善のために彼がアルデンヌ地方で行ったジャーナリストとしての活動の様子や、社会主義思想の喧伝のために彼が作ったシャンソンについて調査した。とりわけクレマンの有名なシャンソン「さくらんぼの実る頃」の成立過程に関する一次資料の分析を行い、検証の結果、この歌は初版では3番までしか歌詞がなく作者クレマンはパリ・コミューン後に4番の歌詞を書き加えたとする俗説が誤りであることを明らかにし、シャンソン研究会で研究成果を報告するとともに以下の論文を研究誌に発表した。

〔雑誌論文〕

1. 吉田正明、「さくらんぼの実る頃」を巡って(単著),『シャンソン・フランセーズ研究』第9号, pp. 72-91, 2017(査読無)

〔学会発表〕

1. 吉田正明, ジャン・バティスト・クレマンと「さくらんぼの実る頃」をめぐって(単独), シャンソン研究会特別企画(2017年9月, 於太宰府)

2. 吉田正明, ジャン・バティスト・クレマンのシャンソン集をめぐって - 科研報告(単独), 第30回シャンソン研究会(2017年11月, 於信州大学)

(3) 信州大学が学術交流協定を結んでいるフランスのリール大学からジョルジュ・サンド研究をはじめフランスの女流作家研究の第一人者であるマルチヌ・リード教授を信州大学に招聘し、科研の研究テーマを発展させて2018年12月「19世紀における文学と民衆文化 - フランスを中心として - 」La littérature et la culture populaire au XIX^e siècle と題する国際シンポジウ

ムを開催し、「19世紀フランス詩における民衆歌の影響」L'influence de la chanson populaire sur la poésie du XIX^e siècle というテーマでフランス語による口頭発表を行い、シンポジウムの報告論文集（仏語）を信州大学人文学部のHPにアップし、研究成果を公表した。

また、パリで調査収集した資料に基づき、19世紀後半パリにおいて、ジャーナリズムにも深く関わったシャンソニエのジュール・ジュイについて明らかになった研究成果を以下の研究誌に発表した。ジュール・ジュイは、19世紀後半パリにおいて絶大な人気を博したシャンソニエであったにもかかわらず、今日では日本はもとより本国フランスにおいても忘れ去られており、本研究を通して彼の実相を紹介するとともに、その功績と真価を再評価することができたことは大きな成果であると言えよう。

〔雑誌論文〕

1.吉田正明,ジュール・ジュイ Jules Jouy - 忘れられた「シャンソニエの王」(単著),『シャンソン・フランセーズ研究』第10号,pp. 53-77, 2018(査読無)

〔学会発表〕

1.吉田正明,ジュール・ジュイ Jules Jouy (1855-1897)について(単独),第32回シャンソン研究会(2018年12月,於信州大学)

2.吉田正明,L'influence de la chanson populaire sur la poésie du XIX^e siècle(仏語,単独),信州大学国際シンポジウム(2018年12月,於信州大学)

(4)信州大学が学術交流協定を結んでいるフランスのリール大学のマルチヌ・リード教授の推薦により,2019年10月13日から10月20日までリール大学に講演者として招聘され,シャンソン研究者であるバルバラ・ボアック教授の大学院ゼミにおいて科研の研究成果の発表を行うとともに,人文学部の図書館において大勢の学生や教職員の前で(約100名)講演会と質疑応答を行った。あわせてボアック教授とシャンソン研究での連携の可能性を話し合った。フランスのシャンソン研究者との交流が深まったことで,今後の研究に大いに役立つことが期待される。

〔雑誌論文〕

1.吉田正明,キャバレー「黒猫」をめぐる(単著),『シャンソン・フランセーズ研究』第11号,pp. 61-80, 2019(査読無)

2.吉田正明,19世紀フランス詩への民衆歌の影響(単著),『信州大学人文科学論集』第7巻,pp. 33-45, 2019(査読有)

(5)研究最終年度(2020年度)はコロナ禍のため,予定していたフランスでの資料調査・収集は断念せざるを得なかったが,新たに«La Lune»等の当時発行されていた新聞資料を入手し,これまで収集してきた資料とあわせて分析を行った。そして主に19世紀末から20世紀初頭にかけてモンマルトルの文芸キャバレーやジャーナリズムの世界で活躍したシャンソニエ詩人ガストン・クテに関する文献資料を多数入手し,その資料に基づいて以下の2つの論文を執筆した。

また予定していた年2回のシャンソン研究会も中止を余儀なくされたが,メール等で会員との意見交換を密に行い,科研調査で得た知見を基に論考集出版に向けた話を具体化することができた。その結果,これまでの研究成果を2冊の著書にまとめて出版することを計画している。

1冊は,19世紀後半に民衆歌を基に教育的配慮からあけすけな表現を削除したり和らげたりしてまとめられ出版されたフランスの子どもの歌の訳と歌の背景を明らかにする内容の本を,以前当方が研究代表を務めた科研の研究分担者であったシャンソン文化論が専門の三木原浩史神戸大学名誉教授と共著で出版する予定であり,もう1冊は「さくらんぼの実る頃」というロマンスで有名になった19世紀後半に活躍した社会派シャンソニエのジャン・パティスト・クレマンについての論考を,シャンソン研究会の他の何人かのメンバーとの共著により出版する予定である。

〔雑誌論文〕

1.吉田正明,キャバレーにおける民衆のイメージ(単著),『シャンソン・フランセーズ研究』第12号,pp. 52-73, 2020(査読無)

2.吉田正明,ガストン・クテとその時代(単著),『信州大学人文科学論集』第8巻,pp. 163-185, 2021(査読有)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田正明	4. 巻 11
2. 論文標題 キャバレー「黒猫」をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 シャンソン・フランセーズ研究	6. 最初と最後の頁 61-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田正明	4. 巻 7（第1冊）
2. 論文標題 19世紀フランス詩への民衆歌の影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信州大学人文科学論集	6. 最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田正明	4. 巻 10号
2. 論文標題 ジュール・ジュイJules Jouy - 忘れ去られた「シャンソニエの王」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 シャンソン・フランセーズ研究	6. 最初と最後の頁 53-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田正明	4. 巻 9号
2. 論文標題 「さくらんぼの実る頃」を巡って	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 シャンソン・フランセーズ研究	6. 最初と最後の頁 72-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 吉田正明
2. 発表標題 ジュール・ジュイ Jules Jouy (1855-1897) について
3. 学会等名 シャンソン研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田正明
2. 発表標題 19世紀フランス詩への民衆歌の影響（伝説）
3. 学会等名 信州大学国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田正明
2. 発表標題 ジャン・パティスト・クレマンと「さくらんぼの実る頃」をめぐって
3. 学会等名 シャンソン研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田正明
2. 発表標題 ジャン・パティスト・クレマンのシャンソン集をめぐって
3. 学会等名 シャンソン研究会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------